

あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'94 6月号



春期特別展
記念行事
講演会開催

『鳥類画家：小林重三』

■特別展「鳥類画家：小林重三」の最終日（5月29日（日））に、国松俊英先生をお招きして講演会が開かれました。国松先生は『ペルシャ湾の水鳥をくえ』などの作品で知られる児童文学学者で、自然と人間の関わりを描いたノンフィクションに力を注いでおられます。国松氏は、忘れ去られようとしていた鳥類画家小林重三の仕事を再評価することに努力を傾けて来られ、今回の講演会でも興味深いエピソードを織りませながら小林重三の生涯についてお話を下さいました。

■お話をすると、日本最大の鳥類画家である小林を育てたのは3人の人物でした。その一人は日本の水彩画の父ともいわれる大下藤次郎で、小林の絵の技術は、水彩画の普及に力

を注いでいた大下の薰陶によるものだそうです。2番目の出会いは鳥類学者の松平頼孝で、小林を雇い入れ、12年間にわたって、鳥類画に専念させました。残念ながら、松平家の財政状況が悪くなつたために、この時期の仕事は実を結びませんでしたが、その後の活躍の基礎はこの時に作られたようです。3番目の出会いは同じ鳥類学者の黒田長礼で、そのもとで小林の絵は多くの本にいかされたのです。

■国松先生の講演を聞きながら、大きな仕事を成し遂げた人の人生にも様々な浮沈があったこと、また多くの人との出会いがそれを支えてきたことを改めて感じました。

<なぜ平塚が?>

■当時の平塚市は、人口約五万という小さな都市でした。したがって、米軍が戦略上の重要な都市として、実際に空襲を行った都市（大都市7カ所、中小都市57カ所の計64都市）の中では、59番目の規模の都市でしかありません。しかし、規模は小さいながら、当時の平塚市には、第二海軍火薬廠をはじめ、横須賀海軍工廠造兵部平塚分工場、同造機部平塚分工場、第二海軍航空廠補給部平塚補給工場、日本國際航空工業、二荒航空工業、近江航空工業といった官民軍需工場があり、紛れもない軍需都市でした。

■軍都平塚が空襲目標に選ばれた理由は、米軍の「爆撃報告書」によると、平塚市が小工業地区であること、特に航空関連工業の重要な地点であり、海軍兵器工場や航空技術開発の研究機関をもつこと、平塚～横浜～横須賀を結ぶ神奈川県の主要工業三角都市の西の拠点であること、BAKA機の生産に関与していることなどが、目標の重要性として指摘されています。

したがって、航空技術開発・研究・生産に係わっていたことが、目標とされた最大の理由になります。

<いつ爆撃は始まったか?>

■平塚を空襲した米軍はグアム島北飛行場を発進し、硫黄島、大島を経てほぼ真南から平塚市上空に進入、焼夷弾投下後、市内城島～秦野～松田～伊豆半島～石廊崎で海上に出て、再び硫黄島を経由、グアム島に帰還しています。

平塚空襲にあたる部隊は、第314航空団4部隊133機で、グアム基地を16日午後4時38分から5時45分までの間、1時間7分かけて飛び立っています。このほか、4機の特殊電波攪乱専用機が出撃し、高射砲やレーダーと連動する探照灯に対して電波妨害を試みています。攻撃

機133機のうち12機は先導機といって主力部隊の先導を努め、目標に先行投弾し、後続機がその火災を目印に投弾する事になっていました。1番機が陸地を初見した時間は、午後11時12分、その20分後に初弾を投下します。その時刻は、11時32分でした。

<投下爆弾は何か?>

■第314航空団の4部隊は、1隊がAN-M47A2（小型油脂焼夷弾）を搭載、残り3隊がAN-M17A1（テルミット・マグネシウム焼夷弾）を搭載していました。M47及びM17は、集束弾と呼ばれ、M47は6発、M17は110発を束ねて落とす物で、目標上空5,000フィート(1,500m)で安全装置が外れるようにセットされていました。当時の日本ではこれら焼夷弾を「親子焼夷弾」と呼んでいます。これら焼夷弾の全搭載量は、1,201.7トン、このうち1,162.5トンが投下され、M47・M17合わせ447,716発が投下された事になります。この数を人口五万で割ると、一人あたり実に8.9発もの焼夷弾が落とされた事になります。

<そして焦土>

■米軍が事前の偵察で平塚の攻撃面積として見積もっていた広さは、2.35平方マイル(6平方キロ)でした。このうち、1.46平方マイル(3.7平方キロ)が市街地、0.89平方マイル(2.3平方キロ)が工業地区と見積もっています。このうち全市外地面積の57%0.83平方マイル(2.1平方キロ)、全工業地区面積の23.4%0.208平方マイル(0.5平方キロ)を破壊したと「爆撃報告書」は伝えています。

■この空襲による人的・物的被害は、県警調べで死者237名・重傷118名・軽傷150名、罹災戸数7,678戸となっていますが、実際の被害はこれを上回るものと推定されています。

（平塚の空襲と戦災を記録する会）

『平塚の大空襲』

寄贈品コーナー展示

6月17日～7月30日

今月のプラネタリウム

こと座物語

6月18日

~7月17日

■七夕のおりひめ星（織女星）は、こと座の一等星ベガにあたります。この琴は、ギリシャ神話に名高い琴の名手、オルペウスの豊琴が天に昇ったものと昔から言われます。

■ギリシャ神話では、死者は地の底にあるという冥界に行くことになります。生きている人間は、もちろんそこへ入ることはできません。ところが生きたままここに行き、しかももどってきた人間がふたりいます。ひとりは5月の投影に紹介したヘルクレス、そしてもうひとりがこのオルペウスでした。

■オルペウスの妻はエウリディケーといいましたが、ある日彼女は散策中に毒ヘビにかまれ、若い命を落としてしまいました。彼女への追慕を断ち切れないオルペウスは、ついに琴を手に冥界へとおもむきます。

■この番組は1991年に制作しました。ナレーションにはまちだ東急スターホールでプラネタリウムの解説をしている小野田淳子さんと松本弥生さんの協力を得ています。光度0.1等、スペクトルA型の純白の星ベガにぴったりの、美しくも、少し哀しいお話を。



オルペウス 「わたしは、わたしの決心で來ました。」

(絵:仲野貴子)

相模川事典刊行

B5版/332ページ 1900円

■開館10周年を記念して、館の基本テーマである「相模川流域の自然と文化」に沿って、昭和62年度から5年間にわたって、相模川の河口から源流の一つである山中湖まで往復する「相模川を歩く会」を実施しました。この会では、2~3回歩くたびに館内の集まりを持ち、野外での見聞を冊子にまとめる作業を積み重ねてきました。「相模川を歩く」と題したその冊子は5年間で16冊、600ページにもなりました。平成4年度から2年間は民俗・地質・生物の3班に分かれて、補足調査を行いました。こうした活動をふまえ、この会に参加された方が、直接見て、聞いて、調べたことをこの一冊の事典に集大成しました。

■本事典は、総論編・事典編・地図編の3部で構成され、総論編では、相模川とその流域の自然と文化について総説的に紹介し、その全体的な特色が把握できるようにしました。事典編では、相模川流域及び金目川流域の、水系・水資源・地形・地質・岩石鉱物・化石・地下資源・動物・植物・植生・環境・社寺・文学・生活・民俗・石仏など、1313項目を収録しました。地図編には、項目として掲げたものをできる限り地図上に掲載しました。

★平塚市博物館の刊行図書は、博物館1階の受付で販売しています。郵送ご希望の方は書籍代金と送料を現金書留または郵便為替でお送りください。書籍代金と送料については博物館までお問い合わせください。

博物館カレンダー

6月の行事予定

5	日	自然観察ゼミナール 「湘南の動物入門」 天体観察会 「太陽」
7	火	全館燻蒸のため 休館
11	土	漂着物を拾う会 休館
12	日	古代遺跡を探す会 休館
16	木	全館燻蒸のため 休館
18	土	平塚の空襲と戦災を記録する会
19	日	相模川の生き立ちを探る会 「桂川の湧水と滝・都留市」
23	木	裏打ちの会
25	土	古文書講読会

7月の行事予定

3	日	自然観察ゼミナール 「湘南の動物入門」
9	土	古文書講読会 漂着物を拾う会
10	日	古代遺跡を探す会
16	土	平塚の空襲と戦災を記録する会
17	日	相模川の生き立ちを探る会 「海辺の石の由来・花水河口」
20	水	※みんなで調べよう <至:8/30>
23	土	古文書講読会 星を見る会 「木星を見よう」
26	火	※体験学習 「勾玉を作ろう」
27	水	※自由研究相談会
28	木	※体験学習 「勾玉を作ろう」 ※自然観察入門講座 「貝化石を調べよう・大磯町」
29	金	※自然観察入門講座 「貝化石を調べよう」
30	土	天体観察会 「スターウォッチング」

5/1~6/5 寄贈品コ-ナ- 「自然部門」
5/14~6/5 プラネタリウム
「ヘルクレスのぼうけん」

6/7~6/16 燻蒸のため 休館

6/17~7/30 寄贈品コ-ナ-
「平塚の空襲展」

6/18~7/17 プラネタリウム
「こと座物語」

7/23~9/4 プラネタリウム
「よだかの星」

7/20~8/30 夏期特別展
「掘り起こされた 平塚Ⅱ」

◆漂着物を拾う会◆

海岸に打ち上げられた動物・植物・人工物を集めて調べます。

開催日：6月11日（土）

7月 9日（土）

時 間：6/11 9:30~11:00

7/9 9:30~15:00

場 所：平塚海岸・博物館<科学教室>

参 加：自由

（花水川河口平塚側たもと集合）

備 考：雨天時中止

「あなたと博物館」

定期講読のお知らせ

平塚市博物館の情報誌「あなたと博物館」は、ご希望の方に直接郵送しています。お申し込みは、住所・氏名・電話番号・ご希望の号（平成〇年〇月号～平成〇年〇月号）をお書き添えの上、80円切手を必要枚数同封して博物館までお送り下さい。<年間13回発行予定です>

お矢口らせ：夏休みに行う体験学習・入門講座・各種行事（博物館カレンダー中の※印）への応募等詳細については7月発行予定の「あなたと博物館」臨時増刊号にてご案内いたしますので、しばらくお待ち下さい。

あなたと博物館 19巻3号 通巻208号 03000 発行 平塚市博物館

〒254 平塚市浅間町12-41 TEL:0463(33)5111 FAX:0463(31)3949 ※この用紙は再生紙を使用しています